

# 2月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

2年2月のD I 値は全8指標すべてが下落。また主要3指標、資金繰りにおいては大きくマイナスとなり、過去1年間で最低となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

生コンクリート業では引き続き出荷量が好調であった様子。

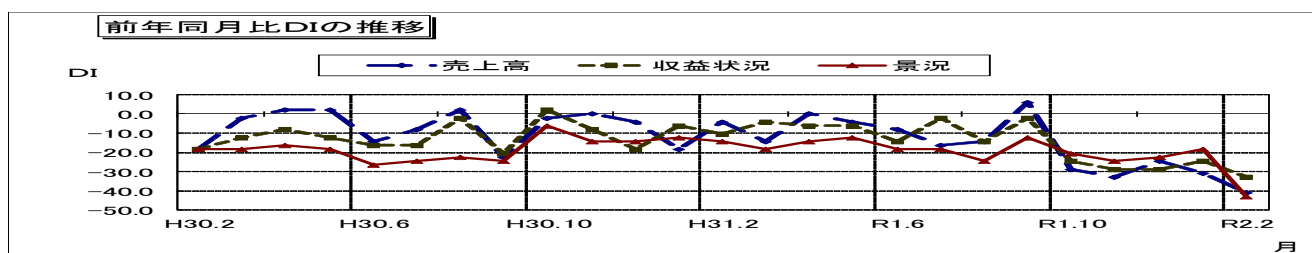
一方、技術者不足、人手不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や燃料価格の高止まりに加えて、新型コロナウイルスの影響による資材の遅れや不足、客足の減少など、今後の更なる影響を不安視する声が多く、業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また中国に加え、欧米で拡大が続いている新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、先行きが懸念される状況になっている。県内中小企業においても、今後の景気動向を警戒する必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	H31 2月	3月	4月	R1 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R2 1月	2月	前月比 増減
景況	-14.3	-18.4	-14.3	-12.2	-18.4	-18.4	-24.5	-12.2	-20.4	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-24.5
売上高	-4.1	-14.3	0.0	-4.1	-8.2	-16.3	-14.3	6.1	-28.6	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-10.2
収益状況	-10.2	-4.1	-6.1	-6.1	-14.3	-2.0	-14.3	-2.0	-24.5	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-8.2
販売価格	12.2	4.1	6.1	8.2	6.1	4.1	6.1	12.2	8.2	10.2	10.2	12.2	8.2	-4.0
取引条件	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	-6.1	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-10.2
資金繰り	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	-4.1	-12.2	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-8.1
設備操業度	-4.1	-4.1	-4.1	-4.1	-6.1	-6.1	-2.0	0.0	-8.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.2
雇用人員	-8.2	-8.2	-14.3	-2.0	-8.2	-2.0	-2.0	-2.0	-6.1	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-4.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## 〔景況関連の報告〕

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は94.1%出荷量は98.9%となった。みその生産量は減少、出荷量は横這いとなった。動向は例年通りであるが、直近の景気低迷に伴う売上減少や依然として原材料のコスト高は続いており、収益面において厳しさが増してきている。
2. 漬物・現在はコロナウイルスの影響は見られないが今後国内の物流面での影響が心配される。2、3の組合員では製造時のマスクの不足を心配している。漬物製造業者、野菜生産農家とも売上高、生産とも引き続き減少傾向にある。
3. 醤油・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、業界でも皆様の健康・安全面を第一に考え、多くの行事が中止、延期がされ工場でも見学者が減少したことを聞いた。

#### <繊維・同製品>

4. 縫製・生産性については、昨年来からの人員数にて生産数量に対処。一方、新設備導入を順次進めて、生産性向上を計る予定である。2月は生産数量には変化なし。
5. 縫製・昨年末に発生した新型コロナウイルスで世界中の国がマイナス成長になっている。今年の2月初旬から急速にウイルスが国内に広がり、消費者マインドが激減している。組合企業の中に製品輸出をしている会員がいるが、中国を筆頭にASEAN諸国の受注がなくなっているのが現状でEC・米国に於いても、3月以降の受注がどのようになるか心配である。当然日本の受注もインバウンドの関係・消費者マインドの低下（購入場所に行かない）で受注が0になっている。80年間経営しているが、今までに経験のない経済落ち込みが、各業界に起こっているのが、現状ではないだろうか。ウイルスが沈下しても、果たして原状回復は、当分出来ない状況ではないかと思っている。業界のために、何か方法を考えているが、打つ手がないのが現状だ。

#### <木材・木製品>

6. 製材・新型コロナウイルスの影響で、中国からの建材が入ってこないため住宅着工に遅れが出てきており、その影響を受けて今後の見通しは悪くなることが予想される。
7. 木材・まったく御多分に漏れずコロナウイルスのおかげで中国から住宅に必要な建材が全く入らないため、建築工事自体が止まってしまっている状態が多い。また木材製材工場も製材はしているが、製材品が全く動かない（売れない）状態で、経営難に陥っているのではないかと危惧される今日この頃だ。

8. 木 材・原木丸太出材量は年度末をひかえ、やや少なくなりつつある。少ない状況の中、荷動きもやや悪く、価格も弱含んでいる。ウイルスによる経済状況の中、今後の先行きに懸念材料が多く、業況は厳しさが増す状況で先不透明感が多大に窺える。
9. 製 材・コロナウイルスの影響により住宅等の施主への引き渡しがのびている。一部住器具等、中国産が含まれている為に木材出荷について製材品がダブっている。
10. 唐 木 仏 壇・新型コロナウイルスの感染のため、小売店にお客が来ない。

<印 刷>

11. 印 刷・2月も全体的に売上高や需要の減少傾向が続いている。ますます原材料費の値上げが価格に転換しにくい状況、年度末需要に伴う売上高の増加と需要の回復を期待するところだったが、コロナウイルスの影響でイベントはほとんどが中止、学校関係では混乱が続いている。先行きが懸念される。
12. 印 刷・新型コロナウイルスの影響により、2月に入りイベントや会合が少しずつ中止になってきた。2月中旬から4月初旬のイベント、会合はほぼ全て中止となった。我々印刷業界はイベントのポスター、チラシ等の告知ツール、またパンフレットやプログラムの印刷物を受注しているのだが軒並みキャンセルになってしまった。新学期に向けた買い物客の出足も鈍く、小売り、飲食業界からの販促ツールの受注も相当数減少しているようだ。本来なら繁忙期であるはずだが例年の忙しさは殆ど感じられない。新型コロナウイルスによる肺炎が早く収束し経済活動が活発になれば持ちこたえられない会社が出てきてもおかしくない。首都圏の印刷業者の中には稼働日を減らし雇用調整助成金を申請する会社も出てきた。

<窯業・土石製品>

13. 生 コ ン・2月は昨年同月と比較して約65%増加。今年に限れば暖冬で雪による影響もほとんどなく、ここにきて災害関連の工事も順調に進み出している様子で、いつも出荷量の少ない山間部の工場の出荷量が増えたことが全体の出荷量が増加した要因だろう。
14. 生 コ ン・2月の出荷数量は、対前年同月比5%増であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官民工事での四国横断道路関連工事以外に新設の民間工事が発生、年度末の工期が重なり出荷増となった。今年度の出荷数量実績については、4月～2月(累計)前年を6%上回っており、期末予想としては昨年よりやや上回る見込みである。問題点としては、業界従事者の人材不足については依然として解消されない。

## <鉄鋼・金属>

15. 鉄 鋼・業況は弱含み状況であり、一部には、設備操業度や引き合いの低下傾向が見受けられる。また、米中の貿易摩擦、新型肺炎などにより、今後の経済活動の鈍化が予想され、その影響が懸念されるところである。なお、依然として、必要な人材の確保が課題となっている
16. ステンレス・新型コロナウイルスの影響で、営業活動等に影響が出始めている。また、感染予防対策から国内消費が広く抑制されるなど、景気下押し効果が強まっており、来期以降の設備投資への影響が懸念される。終息の見通しが立たない状況下であり、更なる感染拡大や長期化による世界経済の混乱が懸念される。

## <一般機器>

17. 機械金属・売上高や引合いなど、一部で減少傾向が見られるものの、全体として、横ばい圏内の動きとなっており、景況感に大きな変化は見られない。しかしながら、米中の貿易摩擦をはじめ、新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大など、世界経済を巡る様々なリスクや不安材料から、将来に対する不透明感の強まりが懸念される。また、引き続き、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加、需要の停滞などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

18. 食糧卸・新型コロナウイルス及び休校の影響なのか、一時的にお米が売れている。

### <小売業>

19. ショッピングセンター・今年は営業日が1日多いため、それなりの数字になっている。2月の売上高の前年対比は全店計104.5%(既存店100.1%)、客数107.1%(既存店101.1%)だった。1日分を差引いても、1月の前年比(売上89.8%、客数94.3%)との比較では、まずまず良い数字だ。新型コロナウイルスの蔓延により、来店客数が減り、売上も減少するだろうと予測していたのだが、これは何なのだろうか。遠出をせずに近場で買物を済ませるといふ現象なのだろうか。マスクやトイレットペーパーが品切れ状態だといえ、これらに売上を底上げするだけ力はないと思う。新型コロナウイルスが徳島県に上陸して徳島マラソン等のイベント等が中止されているが、感染者がさらに1人2人増えれば、外出者の減少・外出時間の短縮という緊急状態になるだろう。
20. 電気機器・消費税増税とコロナウイルスの影響で消費者の購買意欲が低下。また商品の入荷も不安定で景況悪化。
21. 豊小売業・リフォーム関連の現場が多少、一般家庭は少ない。ホームメーカー新築はやや減少、全体的に低迷。コロナの影響はこれから3月に深刻になるかも。
22. 機械器具・コロナウイルスの影響で、商品の供給に遅れが生じ、今後の見通しも未定。在庫が確保出来れば景況も好転する可能性もあり。

## <商店街>

23. 徳島市・新型コロナの影響で人の流れが悪い。売上も低迷している。商店街の空き店舗に新しく出店があった。
24. 徳島市・新型コロナウイルスの自粛要請の影響で人出が少ない。そごう、アミコ専門店街も営業時間の短縮も影響している。
25. 阿南市・新型コロナウイルスの影響で客足減少。
26. 鳴門市・移店、閉店により組合員数が今期は減った。時節柄、イベントが中止になった。

## <サービス業>

27. 土木建築業・交通対策課は、次年度の工事、業務の件数も去年と同じ程度である。次年度、電線共同溝工事が多く出そうだ。道路管理課は橋梁耐震工事・橋梁補修工事の設計業務が多い。工事発注はあるが、業者不足（技術者、労務者不足）が原因であると思われる。入札業者が無い工事が数件あった。工務課 新直轄工事は多く発注されており、R1年度補正予算34億あり去年より多い予算がついて多忙。猪ノ鼻道路も補正予算があり去年と同じ程度。工務・道管・交対 事業全体では、去年より予算が多く付いている。
28. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-16.9%の1,453台、中古車は5.5%の483台、合計では-12.2%の1,936台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-7.9%の1,345台、中古車-1.6%の441台、合計は-6.4%の1,786台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-9.6%の3,722台と減少。販売台数は、登録車の中古車が5.5%増加している以外はすべて減少。特に登録車の新車販売台数は16.9%減。軽自動車は新車・中古車ともに減少し、トータルで6.4%減。登録車は新車販売台数の減少がひびき、軽自動車よりも落ち込みが大きい。今年度いっぱい増税の影響を受けることになるだろう。今後、新型コロナウイルスによる影響も懸念されるところだ。収益情報の目安となる継続検査の台数は、軽自動車は-4.7%だが、登録車は10.3%増加している。
29. 旅行業・コロナウイルスの影響でキャンセルが相次ぎ、どの会社も大変なようだ。
30. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R1年・793円）。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が徐々に現れて来ている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、社会保険（厚生、健康）のあり方に関する動向等多くの課題に包まれている状況だ。加えて、急速に拡大している新型コロナウイルス感染症による種々の影響の把握、可能な対策の検討実行が重い課題となってきた。

## <建設業>

31. 建設業・技術者や技能労働者の不足は、相変わらずである。新型コロナウイルスの影響で、住宅建設資材では販売中止製品が出ている。(TOTO, リクシル等) 公共工事においても、感染者発生の場合の工事の中止等の新型コロナウイルス対策が取られた。
32. 電気工事業・新設住宅口数は265件であり、対前年比71.2%と減少した。
33. 板金工事業・1件、廃業のため退会。新型コロナウイルスの影響のため住宅関係の材料内部設備の仕入れがストップされたため工事がとまり板金業にも影響。(板金業の材料は今のところ新型コロナウイルスの影響は受けていない)
34. 解体工事業・戸建住宅解体工事については県下全般に好調。公共工事については減少。新年度に期待。
35. 鉄骨・鉄筋工事業・新型コロナウイルスの影響はまだ見られない。

## <運輸業>

36. 貨物運送業・一般貨物輸送は、取扱業種により異なるが、例年、荷動き少なく低調に推移。新型コロナウイルスの影響は出ていないが、軽油単価は影響を受け前月比約7円弱の値下がりとなった。今後、取扱量の減少が懸念される。
37. 貨物運送業・多くの業種で景気悪化の影響があり、輸送量が減少している。また、軽油価格の上昇、消費税率引き上げによるコストアップも深刻である。コロナウイルス関連の影響も大きい。2、3月を通じての内容となるが、帰り荷の減少、自動車部品、学校給食関係、飲食店関係の食品などの減少、学校の休校に伴う従業員の休暇取得、宅配でのマスク着用や受け渡し時の手間が増えたなど。また、一部では医薬品、レトルト食品、生活用品などの一時的な需要増も見られた。ただし、慢性的な人手不足のため、一時的な需要増に対して効率的な輸送ができず、売上は上がっても利益が上がらないという状況である。